

戦後65年 今日「慰霊の日」を迎える沖縄

今日23日「慰霊の日」。一般住民を巻き込み20万余の貴い命が失われた沖縄戦から65年がたった。糸満市摩文仁の平和祈念公園では「沖縄全戦没者追悼式」が開催され、戦争で犠牲になられた方々の霊を慰める日である。そして平和を誓う場でもある。

1945年3月に始まった沖縄戦は、「本土決戦」を前に時間稼ぎの道具にされた。つまり捨て石にされたのだ。3ヶ月の持久戦を強いられ、結果犠牲者は20万にもおよんだ。

戦後も米軍統治が続き米軍基地が建設され、今なお在日米軍施設の74%が沖縄に集中している。いまもなお沖縄は本土の犠牲になっている。

鳩山前首相の唯一の効績は沖縄の問題を、あらためて突きつけた

これまで、基地問題は、ともすると政治家、官僚、マスコミなど土俵で語られていた。

本当に基地は「いやだ」という声は沖縄だけの問題のように扱われてきた。本土のマスコミと沖縄のマスコミの基地問題の扱い温度差があった。しかし、民主党鳩山政権発足後、全国民を巻き込んだ議論はかつてなく活発になった。隣に基地ができるかもしれないと多くの国民が思った。

基地をなくせという声は非現実的？

基地は自分の周辺にはいらないと、

誰もがいうが基地はいらないと いう声は少ない。

今、基地をなくせという声は非現実的なのだろうか。戦争で死にたくないという声は当たり前だ。しかし、戦争のない世の中を作ろうという声は非現実的といわれる。

今日この慰霊の日に戦争という現実をみんなの者にしよう。
戦争で死なないために。